唐土名勝圖會

京師

二

唐土名勝圖會第一集巻之二

目次

皇城全圖　目録

皇城

Todo Mei-sho Zukai

唐土名勝圖會　京師　皇城　卷之二

皇城

北

太液池

西

南

皇城總圖

くわうじやうのそうづ

大内既に第壱巻に記とをなれて爰に図を着く内城ま后後巻に図を載ルゆへに又これを除き唯皇城のミをあらせり其殿屋の形を図せるのハ皆寺署なり
大街小街火巷胡同と称する者ハ悉く商民の家居連續きたるまゝにして尺寸の空地なかりし
此図中某街某胡同を記して民屋を図せざるハ人誤て空地となす勿れ

唐土名勝圖會卷之二目録

稽察内務府衙門	白石橋	護城河	大高玄殿
慎刑司署	慶豐司署	會計司署	營造司署
武英殿活字板處	管轄番役署	萬壽興隆寺	静默寺
福佑寺	昭顯廟	宮三倉	偹伏倉
掌儀司署	眞武廟	南花園	玉辞菴
掌内管領關防署	都虞司署	管理三旗納銀莊署	
奉宸苑署	西苑	大液池	瀛臺
蕉園萬善殿	人字柳	金鰲玉蝀橋	承光殿
瓊華島	永安寺	先蠶壇	五龍亭
闡福寺	織染局	延壽菴	經板庫
眞武殿	蠶池	蔡升元宅地	天主堂
琉璃作	永佑廟	大光明殿	高士奇宅地
巧機營	壽明殿	火藥局	西安門
二聖廟	慈雲寺	元都勝境	弘仁寺

虎城　教軍場　地安門

唐土名勝圖會卷之二

故蒹葭堂木世肅先生遺意

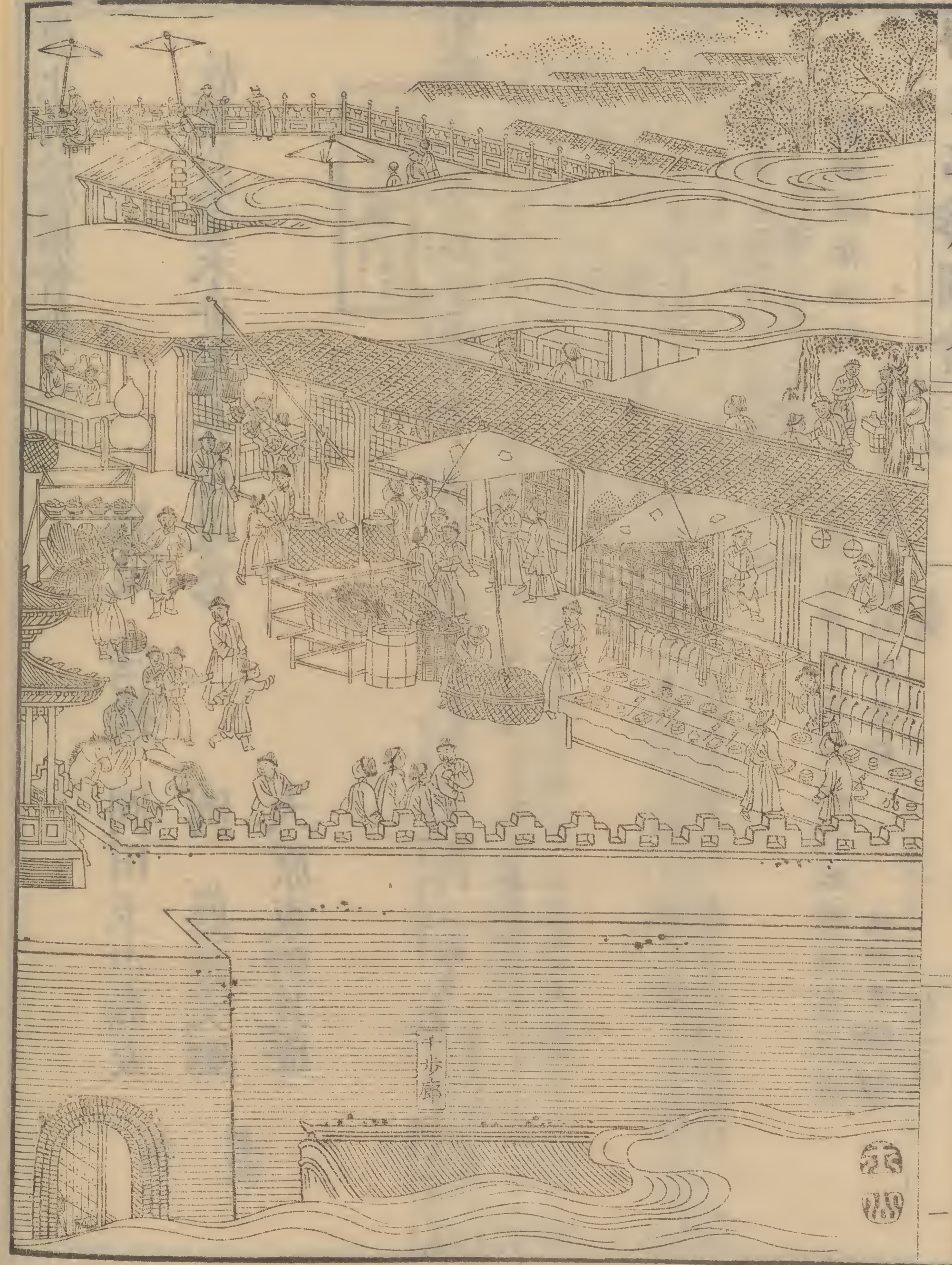
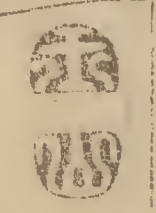
編述　法橋　岡田玉山尚友
岡　熊岳文暉　仝
大原東野民聲　畫

○皇城

皇城は大内の外、京城の中に環らす墻なり。大門四ツ小門二あり。周十八里有奇。城の高一丈八尺。正中南向の門を大清門と云。其少北に小門あり長安左門と云。東に向ふ又西にむかふ門を長安右門と云。東の大門を東安門と云。西を西安門と云。北を地安門と云。また正南大清門の内に天安門あり。天安門の内に端門あり。端門の内左に闕左門あり。其正中北は即紫禁城の午門なり。南大清門に對るを京城の正陽門とし。

大清門　三闕飛檐重簷なり。門の前廣闊正方地ありて内城の正陽門に接し。繞に石闌を以てし。圖すは蹕をつらぬる長廊ありてもろもろの貨物雲のごとく集まり。名て棋盤街といふ。明の代大清門を大明門といふ。棋盤街又天街ともいへり。月を賞るに宜し。漸曖の處とし。

査嗣瑮雜咏詩
棋盤街闊靜無塵
百貨初收百戲陳
向夜月明
真似海
參差宮殿湧金銀
鳴門書

大清門前棋盤街

千歩廊

千歩廊

千歩廊 大清門の内、東西の回廊なり。長さ各百有十間、ひだりみぎに折ること三十四間。凡吏部、兵部、月選官、刑部、翰林、鴻臚卿ともに廊房の左右に集る。廊の外、東を戸部米倉とし、西を工部木倉となす。○昔は長廊が左接ありき。舊聞考に曰、大清門内の朝房を以て千歩廊に當るは、蓋全史に據て云へり。又元の歐陽原功が讀に霽正門當千歩轍と云へるハ千歩廊の閬闠なるを明らけし。今大清門外の居人尚此名によりて千歩廊と稱すといふ。是が千歩廊の名大清門の内外にかゝあり。

長安左门 大清門内の千歩廊の東に接し東に向ふ。

長安右门 大清門内千歩廊の西に接し西に向ふ。○明の正統年間左右長安門の外に公生門を建て、凡東西長安門ハ五府の各部に通じ、公宦の往来きはめて繁し。故に公生門を設けて出入の徒をいましむ。都下の市人訛て孔聖門といふ。

天安门 大清門の後、両長安門の中にあり。南に向ふ。九間、闕上に重楼を覆ひ、金水河を前に環し、石梁七を跨る。即外金水橋と稱す。皇城の正門なり。門前に華表二を立、門内にも同じく華表二を立。門内東西両廡あり。各二十六間。明の代に承天門と云。清朝順治の間天安門に改む。凡頒詔にハ金鳳の朶雲を此門の楼上に設、宣詔官朝服し、耆老を領し、禮を行ひ、朶雲をもて是を承る。則詔書を金鳳より啣ミおろす。頒詔ハこれをうけてのり、天下に頒ち行ひ給ふ。

一　凡頒詔之礼。礼部鴻臚寺官豫設詔案於太和殿内左楹之南。及丹陛正中。鑾儀衛設黄蓋雲盤於丹墀内。龍亭香亭於午門外。工部據設金鳳朶雲於天安門上堞口正中。設宣詔臺於東第一楹。設黄案於臺上。奉詔宣詔各官咸朝服恭竢。領催耆老咸齊集天安門外金水橋南。届時内閣学士奉詔至乾清門。恭用御宝。畢奉至太和殿。陳於東案。皇帝御殿。群臣朝賀行礼畢。大学士一人入殿左門。詣案奉詔由中門循左闌出。至殿檐下。授礼部尚書。礼部尚書跪受。興由中階左降至丹陛正中。陳於案。行一跪三叩礼。跪奉詔興。由中階降。置雲盤内。礼部儀制司官奉雲盤。張黄蓋。由中道出太和門。文武各官由昭徳門貞度門隨出。詔至午門外。礼部官奉雲盤。設龍亭内。鑾儀校舁亭。前列御杖。導引樂作。礼部尚書率屬隨至天安門。登城。陳詔書於宣詔臺案上。文武各官於金水橋前。按翼序立。鴻臚官贊排班。文武各官按班次北面立。領催耆老序立於後。宣詔官登臺西面立。鴻臚官贊有制。衆皆跪。宣詔畢。文武各官領催耆老均聽贊行三跪九叩礼。奉詔官奉詔承以朶雲。由金鳳啣下。礼部官祇受。仍設龍亭内。鑾儀校舁行。前列黄蓋御仗。導迎樂作。由大清門出。至礼部。礼部尚書侍郎率屬跪迎於儀門。陳詔於大堂。行三跪九叩礼畢。恭鐫詔書。謄黄頒行天下。

金鳳朶雲之圖

金鳳は羽をもて是を作り、上に金を塗。高さ二尺一寸五分。則詔書を鳳の口に啣しむ。朶雲の廣さ三尺四寸、羽をもて雲形を造り、表に金を塗。金鳳がふくみたる詔を乗る器なり。

天安門頒詔
天安門
金鳳
朶雲
禮部官
龍亭
鴻臚寺官
文武官
耆老
樂官

雙闕平明煙霧開九重須詔出層臺播懸木鳳銜書舞伏立金鶏下赦来彩檳横時天宇濶黄封展盡聖心裁策災本是賢良事何處還尋杜谷才

右毛奇齢天安門頒詔詩　皆川愿

○太廟街門　天安門の内東の廡の正中にあり。○社稷街門　天安門の内西の廡の正中にあり。

端門　天安門の後にあり。門の制天安門とおなじ。門内東西の両廡各四十二間、其北の東に廟右門あり。西に社左門あり。是より北に又北十二間の両廡あり。部院寺府監等の諸官朝房とす。其廡の北の東に出る者を闕左門とし、西に出る者を闕右門とす。又門の北の東西両廡各三間、諸王公朝集の處とす。○凡八旗都統の會議は俱に闕右門の下に集り、九卿會議揀選人員驗看月選官員は俱に闕左門の下に集る。

○中書科直房　午門の外西廡にあり。○六科給事中直房　午門の外両廡にあり。吏戸禮の三科は左、西に向ひ、兵刑工の三科は右。

雍正二年、始めて六科をもつて都察院に隷し、吏科の北に聖祖康熙皇帝御製御書の臺省箴漢文の碑をたつ。一通あり。

太廟　闕左門の東にあり。南に向ひ、朱門丹壁黄琉璃の瓦をもつてし、衛に宗垣あり。周二百九十一丈六尺八寸。太門三、左右の門各一、戟門は五間、崇基石闌、中三門、前後揚く三出の陛あり。門の内外に戟をつらね、総て百有二十。左右の門各三間、等しく一出の陛あり。戟門の外東西に井亭各一。前殿は廣十有一間、檐は二重にして、沈香木を柱とし、正中三間、梁は金を以て飾る。陛は三成、繞らすに石闌を以てし、正南及び左右の陛、凡五成、一成は級二、成は又級三、三成は中十有一級、左右各九級。凡歳暮大祫の日は王公二人、各宗室官を率ひ、中殿後殿に安じ、列祖及び列聖列后の神位を前殿に合せ祀る。又時饗には中殿の神位のみを此に奉じて、祧廟の主は其序ありて與る。

太廟

唐土名勝圖會
京師
皇城
巻之二
太廟前殿時饗陳設圖
正位
此陳設の圖は毎歳四季の孟月に行はるゝ時饗の期に殿の正中南向に奉安せる太祖高皇帝孝慈高皇后の神位に供しまする所式なり又此殿の東西に配饗せる太宗世祖聖祖世宗の神位に供する饌式にして大概此南向の陳設に同じかるべし
東廡に祀る功王の饌は此より亦簡なり又西廡の功臣に祀る東廡よりもつて簡之
今ここに南向の陳設を挙て其余を略したり尚
大清會典と考ふべし
陳設の祭器簠簋籩豆のたぐひは次の圖を觀して漢朝の製を知らしむ
太廟前殿時饗配位圖
分獻官
掌燎官
陪祀官

太廟陳設祭器

玉爵

通高五寸三分深二寸四分兩柱高九分腹為藻紋三足相距各一寸六分高二寸一分

鉶

範銅為之兩耳及緣飾以金高四寸一分深四寸口徑五寸一分底徑三寸三分三足高一寸三分用青色甆兩耳為犧形口繪藻紋次回紋腹繪貝紋蓋高二寸五分繪藻紋回紋雷紋上有三峰高一寸飾以雲足紋同

登

用黃色甆通高六寸一分深二寸一分口徑五寸寸校圍六寸六分足徑四寸四分口為回紋中為雷紋柱為饕餮足為雷雲紋蓋高一寸八分徑四寸五分項高四分上為星紋中為垂雲紋口亦回紋

簠

木質髹以漆塗金四面飾以玉通高四寸六分深二寸六分口縱六寸四分横八寸底縱五寸一分横六寸四分蓋高一寸四分口縱横與器同上有稜四周縱六寸四分横八寸面為夔龍紋束為回紋足為雲紋兩耳附以夔龍蓋紋與器同

簋

木質髹以漆塗金四面飾以玉通高四寸二分深二寸一分口徑七寸二分底徑六寸蓋高一寸八分徑與口徑同上有稜四出高一寸一分口為回紋腹為金飯紋校為饕紋足為星紋兩耳為夔龍蓋紋與器同稜為雷雲紋頂周為回紋中為雲紋

豆

木質髹以漆塗金三方飾以玉通高五寸五分深二寸口徑四寸九分校圍二寸足徑四寸七分蓋高二寸二分徑與口徑同頂高五分腹為垂雲紋回紋校為波紋金飯紋足為黻紋蓋為波紋回紋頂為綯紐高六分

籩

編竹為之以絹飾裏頂及緣皆髹以漆黃色口繪雲紋通高五寸二分深九分口徑四寸四分足徑四寸一分盖高一寸八分徑與口徑同頂高五分頂緣漆色與器同

篚

編竹為之四周髹以漆黃色高五寸縱四寸九分横二尺二寸五分足高七分蓋高一寸一分

前殿両廡 前殿の左右にあり。各十有五間。東廡ハ王公の位を配饗し。西廡ハ功臣の位を配饗ス。又東廡の前西廡の南に燎爐各一あり。

中殿 廣九間。堂と同ふして室を異にす。内にハ列聖列后の神龕を奉ス。中室にハ太祖天命高皇帝孝慈高皇后の神位を奉安し。左の一室にハ太宗天聰文皇帝孝端文皇后孝荘文皇后の神位を安し。右の一室にハ世祖順治章皇帝孝惠章皇后孝康章皇后の神位を安し。左の二室にハ聖祖康熙仁皇帝孝誠仁皇后孝昭仁皇后孝懿仁皇后孝恭仁皇后の神位を安し。右の二室にハ世宗雍正憲皇帝孝敬憲皇后の神位を安し。各く几を設玉冊玉寶の箧を連ね並に床榻衾枕帷幔を設けまる事なる後のごとし。○中殿の後紅墻を以て界とす。其中三門左右各一。門閉て後殿とに。

後殿 殿の制中殿と同じ。祧廟の神龕を奉安ス。中室にハ肇祖原皇帝原皇后の神位を奉安し。左の一室にハ興祖直皇帝直皇后の神位を安し。右の一室にハ景祖翼皇帝翼皇后の神位を安し。左の二室にハ顯祖宣皇帝宣皇后の神位を安し。其余小事の如きの儀中殿に同じ。中殿後殿両廡 各五間。祭器を納む。後殿東廡の南にあり燎爐ひとつあり。

神庫 戟門の前右にあり。 神廚 神庫の西にあり。 宰牲亭 廟門の東南にあり。 ○廟の西南ハ門左廟街門西ハ即左廟右門なり。皆西に向ふ。○時饗と稱る者ハ毎年正月上旬四月七月十月の朔日に行ふ。給祭を給と稱るハ歳の除日前一日に行ふ大祭なり。

凡饗太廟之礼。時饗之日。恭奉後殿列祖列后神位於前殿中宝座。皆南嚮。奉中殿列聖列后神位於前殿宝座。太祖位南嚮。列聖以昭穆序。東西嚮。前殿皇帝恭詣行礼。後殿遣官将事。帝后同案。皆牛一羊一豕一簠二簋二籩十有二豆十有二。鑪一鐙二。各帛一。登一鉶一尊一。玉爵三。金匕一。金箸二。帛共篚。牲共俎。尊實酒。疏布冪。勺具。東廡五案。皆牛一羊一豕一簠二簋二籩十豆十鑪一鐙二。各帛一鉶一爵三。共尊三。西廡九案。皆羊一豕一鉶一簠一簋一籩四豆四鑪一鐙二。各帛一爵三。共尊五。帛各實於篚。牲俎尊酒冪勺具。大饗前一日。樂部設中和韶樂於前殿第一成階上。分左右懸。祭日。鑾儀衛陳法駕鹵簿於

午門外金輦於太和門階下日出前四刻太常卿詣乾清門告時皇帝御祭服乗礼輿出宮内大臣侍衛前引後扈如常儀至太和門階下降輿乗輦駕発警蹕午門厳鼓法駕鹵簿前導不陪祀王以下文武各官咸朝服跪送導迎鼓吹設而不作皇帝由太廟街門左門入至外垣南門外神路右降輦賛引大常卿一人恭導皇帝由太廟南門左門入至戟門幄次公一人率覚羅官詣神位安奉殿中宝座王一人率宗室官詣中殿上香行礼恭請神位安奉前殿宝座畢太常卿奏請行礼皇帝出幄次盥洗賛引太常卿恭導皇帝由戟門左門入陞左階入前殿左門就拝位前北嚮立太常賛礼郎引分献官至階前夾甬道立鴻臚官引陪祀王公位殿外階上陪祀百官位階下左右序立均北面典儀官賛樂舞生登歌執事官各共廼職武舞八佾進賛引官奏就位皇帝就拝位立廼迎神司香官各奉香盤進司樂官賛挙迎神樂奏貽平之章賛引官奏詣香案前恭導皇帝詣太祖高皇帝香案前司香官跪進香賛引官奏跪皇帝跪奏上香皇帝上炷香次三上瓣香興以次詣列聖香案前上香儀同奏復位皇帝復位奏跪拝興皇帝行三跪九拝礼王公百官均随行礼奠帛爵行初献礼宗室司帛官奉篚司爵官奉爵各詣列聖列后神位前奏敉平之章舞干戚之舞司帛官跪奠帛三叩司爵官立献爵奠正中皆退両廡分献官上香執事生奠帛献爵各如儀司祝至祝案前跪三叩奉祝版跪案左樂暫止皇帝跪群臣皆跪司祝読祝畢奉祝版詣太祖神位前跪安於案三叩退樂作皇帝率群臣行三拝礼興樂止武功之舞退文舞八佾進行亜献礼奏敷平之章舞羽籥之舞司爵官献爵奠於左儀如初献行終献礼奏紹平之章司爵官献爵奠於右儀如亜献両廡畢献儀如初樂止文徳之舞退太常官賛賜福胙光禄卿二人就東案奉福胙進至太祖位前拱挙降立於皇帝拝位之右侍衛二人進立於左皇帝跪左右執事官咸跪右官進福酒皇帝受爵拱挙授左官進胙受胙亦如之三拝興率群臣行三跪九拝礼徹饌奏光平之章徹饌畢太常官跪告礼成於神三叩退挙還宮樂奏乂平之章皇帝率群臣行三跪九拝礼有司奉祝次帛次香恭送燎所皇帝轉立拝位旁西嚮候祝帛過復位樂作祝帛燎半奏礼成恭導皇帝由戟門左門出先是於皇帝入戟門幄次時太常賛礼郎二人引後殿承祭官至殿垣門右東面立俟皇帝入戟門賛引官引後殿承祭官入右門升自右階至殿外中階拝位前北面立典儀官賛執事官各共廼職賛引官賛就位引承祭官就拝位

立司香官奉香盤進賛引官賛詣香案前引承祭官由殿右門入詣香案前司香官跪奉香賛引官賛跪承祭官跪賛上香承祭官上炷香次三上瓣香興以次詣各香案前上香儀同賛復位引承祭官出殿右門復位賛跪叩興承祭官行三跪九叩礼奠帛爵行初献礼覚羅司帛官奉篚詣案前跪奠帛三叩司爵官奉爵立献奠正中皆退司祝至祝案前跪三叩奉祝版跪案左承祭官跪司祝読祝畢奉祝版詣正中神位前跪安於案叩如初退承祭官行三叩礼次亜献司爵官献爵奠於左次終献司爵官献爵奠於右均如初献儀承祭官行三跪九叩礼有司奉祝次帛次香恭送燎所承祭官轉立西旁東面候過復位祝帛燎半告礼成引承祭官仍降自西階由戟門右門出王公二人率宗室覚羅官恭請前殿神位還御中殿寝室後殿神位還御後殿寝室上香行礼如前儀皇帝至外垣南門外神路右陞礼輿法駕鹵簿前導導迎樂作奏祐平之章皇帝回鑾王公従各官以次退不陪祀王公百官朝服於午門外跪迎午門鳴鐘王公随駕入至内金水橋恭候皇帝還宮各退

○歳暮大祫日

之礼以繁略之

社稷壇　闕右門の西にあり。北に向ふ。壇の制方にして二成。高さ四尺。上成は方五丈。下成は方五丈三尺。陛は四出。各四級。皆白石なり。上成は五色の土を以て方位を辨じて是を築き。内壝方七十六丈四尺。四面五色の瑠璃甎を以て是を甃す。正に随ひ甃し。西に瓦を葺き又門をなす。四方各一門あり。諸櫺楣を白石を以て作り。扉は朱櫺なり。内壝の西北に瘞坎ふたつあり。

拝殿　戟門　壇の北にあり。各五間。戟門の内外に七十二の戟をつらぬ。より門殿後に黄琉璃の瓦を覆ひ前後各三の陛あり。毎歳春二月。秋八月。上の戊の日。天子親ら壇に登り。太社太稷の神を祭り給ふ。

祭社稷禮以繁略之

社稷

神庫　神厨　倶に内壝の西南にあり。各五間。又井一あり。　壇垣　周二百六十八丈二尺。内外ともに丹艧に塗て黄瑠璃の瓦をもつて覆ふ。北ハ三門、東西南の三方ハ各一門あり。

宰牲亭　西門の外に在り。又井一。　正門　壇の北門外東北の隅にあり。正門一、左右門各一。○東南ハ社稷街門、東北ハ即社左門なり。

○皇史宬　内南城の南にあり。列聖の實録、聖訓及び玉牒を蔵る所也。乾隆帝御製の詩并に碑あり。明の嘉靖十七年秋七月命して皇史宬を重華殿の西に建、金匱石室を其中に置んと欲し、閣館の諸臣に勅して重て先朝の宝訓実録を書せしめ此に納さむ。清朝これに依て又實録宝訓を蔵む所也。　鐫歴門　左右小門の名なり。鐫の字順治帝の御製詩に多くは作らしむ。即龍の字と同じ。　○緞疋庫　庫神廟　内東華門の外小南城にあり。襄勤庫と名く。　雍正九年重修の碑あり。

小南城ハ明の英宗皇帝の拵せし南内にて、永楽中に所謂東苑なり。永楽十一年五月端午、帝東苑に行幸ましく、撃毬、射柳を観、群臣に詩を賦せしめ宴を賜ふ。

明王直端午聽去年從幸東苑詩

千門晴日散祥烟。東苑宸遊憶去年。玉輦乍移雙闕外。彩毬低度百花前。
雲開山色浮仙仗。風送鶯聲繞御筵。今日獨醒還北望。何時重咏栢梁篇。

射柳の戯といへるハ、蒲蓆あるひハ盆の中に鴿を押込み、遥に柳の枝にこれを懸け、遠く隔て是を射る。中る時ハ盆を射開き、中なる鴿を揚らしめて飛で空中を揺るをもつて樂をなすといふ。○明の宣徳中、東苑に一の小殿を設く。宣宗帝覧し給ふ所なり。其殿のさまことさら拵しかりけれハ、深林翳翳として本遠りまて学とりて、五の飾り、楽閣玉階の輝しきを引かへめぐりに懸る拵じまま、工匠に命あれ。るりを用ひ、堂に流る風情して建らまよう。殿の西には細き道ありめぐりくして荊扉に入れば、

前に清らかなる流れありて、石を甃く川をなせり。門の南の方に小橋を架し、上に茅ぶきの亭を設け、西と東に橋を挟んで、又茅葺の亭を建、其下には清流めぐりて、瀑泉の飛躍るさま、いはん方なし。殿の東に殿あり。是清暇殿とよび、書を讀の所ならん。西に軒あり。こゝは後朝琴を弾ぜられし所なり。にわの方には竹の籬を編み、其下には蔬茄瓠瓜のたぐひ、おのが種にまかせ繁盛とうりながものふりたるさままでも、宝に農家の名の英をつくし、繁栄を極めらるれ。殊しうりは係る俤の風情にてぞ目にみえる心地し給ふなるべし。

小南城ハ東苑の中にあり。明の英宗帝の御座ありし所なり。曾て英宗帝北狩し給ふ後、景帝位に即きたまひ、小南城にありし宮殿の石闌干、壁、及び園の樹木を内官等に命して悉伐しめ、隆福寺を造営し給ふ。英宗帝北狩より還り給ひ、甚く憤り給ひしが、後内官陳謹等を獄に下し、再び殿閣を増し、離宮となつて、ありしをも建させ給ひ、其宮殿の後に小き池をかりせ、小橋を跨らせ、池の東後方ハ旧の石壇を設け、松樹、檜木を多く植、其花果なる等、殊の外以前より一倍せり。後の一殿ハ古仏を供し、左右の廻廊ハ内殿に通し、すべて大内の式に倣ふてつくり建られしを南城と称し、東苑今ハ廃して既に年あり。

○飛龍橋　内南城にあり。玉河に跨る。明の飛虹橋の遺址なり。○皇史宬の西、観心殿射箭所とて、橋の南ハ則嘉樂館なり。其北に丹鳳門あり。門外に金獅二を列ね、門内正殿を龍徳殿といふ。左右に配殿あり。其正殿の後ハ即飛虹橋なり。此橋石を以て造りなし、龍魚水族をかりしのせり。精工甚妙なり。此ハ三寶太監より得るとぞ。

鯨海遥涵一水長。清波深處石為梁。平鋪碧甃連馳道。倒浮銀河入苑墻。
晴緑乍添垂柳色。春流時泛落花香。徹泛迥隔蓬萊島。不放飛塵入建章。
明朱維京度飛虹橋詩
荒井公廉書

飛龍橋

[illegible]

飛龍橋の北に二の坊あり。飛虹、戴鰲の額あり。姜立綱が書なり。此北は山なり。山下に一の洞あり。額を西山岩といふ。磴道をまけ上れば、上に乾運殿あり。左右に凌雲亭・御風亭の二あり。小石を疊て奥となし、庵薩羅花布の いけがき、礎のごとく〔?〕あり。○普度寺　寶彰庫の北にあり。明の南城重華宮の遺址なり。康熙年間にこれを建りして瑪哈噶喇の廟となし、乾隆四十一年普度寺の額を賜ふ。堂萃に御書の額を賜ふ。○國初睿親王府なり。後に寺と改む。今寺の左に慈護法佛殿あり。内に護甲弓箭を掛させ給ふ。睿親王の遺物なり。○明の南内に洪慶宮といへるあり。蕃佛を供ふる處なり。彼蕃佛とは即ち瑪哈噶喇なり。親王邸に入せ給ひし時、尚此佛像を移し、其後因て廟を建るものならんか。瓊嵓庫　廠乃東の地名なり。巷口に石獅二ありて河巷に傍ふて南北に通ず。内に東流橋の尾房あり。蓋子といふの庫房なり。○馬鞍橋　繖蓋庫乃東南、普勝寺の東北にあり。○南薰亭　東安橋の南にあり。○平橋　馬鞍橋河のあたりにあり。

東安門　皇城の東、北面南にあり。大内の東華門と相對す。○東安橋　東安門の内大街にあり。○内に宮仕する宦女初めて選まれて内宮に来る時、まづ東安門より進み、東安橋をこゆるなり。此時にして日々に朝恩を蒙り、限りなき榮耀を極むれば、此橋を稱して皇恩橋といふ。凡宮中に来る里侍ふる者、此頃御にてすなはち寵偶の厚き、衰て君恩の薄くなりゆくに至ては、寄まにふりて我父母の郷を戀ふ。依て京師の俗、皇恩橋を呼びて忘恩橋とよぶなり。

○光祿寺署　東安門内大街の北にあり。堂の額を敬慎有節といふ。雍正帝の宸翰也。凡光祿寺の掌る所は、大内膳羞及び燕饗の需を掌るなり。大官署・珍羞署・良醞署・掌醯署等の役所ありて、これ光祿寺に屬し、飯牢・膳魚・酒漿・果蔬の物を分ち掌る。壇廟及び奉先殿、其餘すべての祭祀に牲を割き、肉を陳、爵をなす。膳を進む。或は萬壽聖節・元日・除夕、或は成婚・下嫁の筵、其外大内に行ふ燕饗大小となく、都て饗餼のことをあづかり掌る。○寺といふ、院といふ、皆役所のことなり。原蕃候の入朝せしとき署

東安門
東安橋

東安門

光禄寺署

東安橋

に至しより今佛場僧室で寺院とは又なり○署中に鐵李木の酒搾あり沈萬三が家の物なりといふ傳へ搾ごとに米二十石を容るべき酒百甕に滿りしと云○糟房あり七層をなし南に向ふ其南に御酒房長春房あり四季の花を採りて酒を醸して名酒房あり貞一酒を造る所なり○門を名ふ門ともいふ内に如冰軒四回星堂あり後の空地に獄の骨を瘞む所あり○明の張元易光孫等の署中の竹と梅とを今其芸蕃茂せり黎惟敬稱美詩ありと題して紫禁滄洲といふ○**南池子** 東華門の外東南にあり○**鞍作** 南池子の北御の南にあり○**外養牲處** 南池子の南にあり○**門神庫** 南池子の西北にあり明の重華宮の地なり嘉靖間世宗皇帝睿廟の東に廟を建て興獻帝を祀り諱を門に十に年廟の後を葬るに寺に並べ重華宮とす以て今地界をなして考ふべし門神庫は重華宮の地なり○**武備院署** 東華門外北長街の路北にあり舊これ氈庫なり甲庫となる氈庫と云靴皮作と云鞍庫と云皆御用の鞍具等を製作の制衣造を掌る凡天子親ら壇廟を祭り諱ひて日弓司矢の官恭しく御用の弓矢を奉て死都に從ふ又巡狩方岳に於て大閲軍旅等には惟宮帳殿帳擬網擬などは武備院これを掌りて張設く其外帝親ら諭すに掌

皇帝大閲冑

天子軍の調練を見給ふを大閲といふ其大閲の時御頭に冠りし給ふ革の冑なり

皇帝大閲櫜鞬

櫜鞬は日本の靫なり

康熙御製威遠將軍礮

清朝礮の制甚多し。金龍礮制勝將軍礮等ハ皆康熙帝の御製なり。其余神威無敵大將軍礮。神威將軍礮。神功將軍礮。得勝礮。衝天礮。子母礮。威遠礮。龍礮。奇礮。渾銅礮等数多ありて。其制悉く異なるべし。擧きえずてこれを略ス。

行營信礮

九節十成礮

如意弩

如意弩箭

鉤

射虎弩箭

射虎弩

皇帝御用虎神鎗

御製の記あり審に禮器圖式武備部に出る

線鎗

鎗ハ日本の鉄炮なり

唐土名勝圖會
皇帝行營内城旗
皇帝行營外旌門纛
正旗
鑲旗
外旌門纛二あり東ハ鑲白西ハ鑲紅南ハ正藍の二纛を遶ゝ閒ひ北ハ正紅緞に縫なれてこれを制ス
藤牌
籐なり蔓を編くこれを制ス
虎頭牌
牌ハ木なり革を以てつゝミ虎の頭を画く
十七
王命旗
令
王命牌
令
王命旗牌ともに總督總兵巡撫提督等の官員に頒ち給ひて兵丁を號令するの器なり旗ハ藍緞にて制り牌ハ椴木をもて為る圓形ハ朱塗なり各令字の清漢文を金にて塗る
緑營大帥旗
大元帥の旗ハ演武廳の将臺に是を懸て旗ハ藍布をもて制す帥字の漢文を大書ス柄ハ朱ぬりの竹を用也
帥
唐土名勝圖會
京師
皇城
巻之二

皇帝駐蹕大營
黄幔城
網城
連帳
内城
外城
皇帝大閲黄幄
皇帝停蹕頓營
唐土名勝圖會
京師
皇城
巻之二
十八

蓋宮・華蓋を製て御し。まさに御座の褥を設るゝは皆武備院の掌る所なり。外甲庫 東華門外北燃蓮房あり。外氈庫 同所 外南鞍庫 同所 熟皮作 同所に皆武備院に属す。騎河樓と相對。此外に諸武備院に屬を。○恩豊倉 東華門外北圍房にあり。内監人并びに食不の子孫を給ふ。○儲羅

斯文館 東華門外北池街の西にあり。○宣仁廟 北池街に閣殿あり。雍正六年勅して風神を此に祀る。至門に世宗皇帝御書の額あり。○凝和廟 北池街騎河樓の南にあり。雍正八年勅して雲神を祭る。門に世宗皇帝御書の額あり。○關帝廟 騎河樓街にあり。

廟と名く。樓二あり。皆殿閣。關帝廟の字を擬る。○騎河橋 東安橋の北にあり。燕史に云。亭あり。橋上に居て涵碧を望む。即此橋なり。今尚橋に石樓二あり。橋の西街の北に即關帝廟は也。○北箭亭 ○眞武殿 御馬圏の南にあり。地と銀関と名く。即明の御馬監裏草欄が舊地なり。天啓三年の碑あり。○御馬圏 銀関にあり。○

職官帳房

武職の官人大營に在る營のあひだは帳房を設けて起座とす。護に藍布をもつてこれを制す

兵丁帳房

兵卒の宿る所なり。白布をもつてこれを帷る

馬神廟　馬神廟街にあり。明の御馬監が馬神の舊祠なり。康熙帝の御書あり。廟内に大鐘一口あり。上に明の正德十年鑄の字あり。又小鐘一口あり。嘉隆朝。康熙間に鑄る。

○一等忠勇公第　馬神廟街の東にあり

○明の代、御馬監の東に北花房あり。此花房の小河に小龍あらはる。其長一尺許、色黄にして角あり。みづから流れあり。鱗はしやがて獲てこれを箱に包み、金盆に盛て奉る。時に王錫爵の家同なり。帝命じて玉龍潭に送放さしむ。

○嵩祝寺　王駙馬の東にあり　乾隆帝御書の額あり。額は章嘉の字なり。○胡圖克圖護修の寺なり。胡圖克圖は道行高の番僧をいふなり。

○智珠寺　嵩祝寺の西にあり　乾隆帝の御書の額あり。

○法淵寺　嵩祝寺の東にあり。寺内に銅鼎一座。高さ六尺。有殿。乾隆帝の碑文あり。

○嵩祝寺の東廊の中に銅鐘一あり。番經廠の字を鑄るなり。西廊の下には銅雲板一あり。漢經廠の字を鑄る。法淵寺には明の張居正が撰する番經廠の碑あり。これに據て考ふれば、嵩祝寺、法淵寺、智珠寺の三寺は明の代の番漢經廠なり。

○吉安所　纏鼓寺の南にあり　凡宮嬪薨逝を時は此に殯殮す。明の代乃司禮監廨あり。後に松樹あるを以て内書堂と號し、小内官を書を讀しむる所、凡内書堂に

嵩祝寺銅鐘圖

は學士二人日ごとに清て學生を教授し、此に來て教を受る書生は十余人を例として甚多きを許さず。これ學士陳山よりはじまり。今に至て尚之を學生と名付。白鑞の幡龍燭臺を以て東廠と

○鐘鼓寺　鐘鼓寺胡同にあり。○明代の鐘鼓司廨なり。出朝鐘鼓及び内樂、傳奇、過錦、打稲等の諸雜戲を掌る所なり。

○五聖祠　酒醋局の南蠟庫胡同にあり。碧霞一あり。又内府供用庫に五聖祠あり。供奉の十字を誇つけたり。

○興隆寺　酒醋局胡同にあり。額一あり。上に酒麪局佛堂供奉の字を鐫る。

○華嚴寺　内織染局胡同にあり。明の弘治、嘉靖兩度重修の碑記あり。

○朱彝尊賜宅　景山の北黄瓦門の東南にあり。○朱彝尊字は錫鬯、浙江秀水の人なり。竹垞と號す。康熙己未の歳、召されて翰林院檢討となる。人となり博學にして、經史子集及び金石碑版まで悉く考索せざるといふことなし。其著述、日下舊聞、詩綜、詞綜等ある。

○鹽道苑總處　地安門南街の西にあり。其北に向ふ。○北に廟あり。關帝を祀る。大王廟といふ。○景山官學　景山の東門北の連房なり。

黃封内膳傳供給
白蠟名香抵束修
若何須識丁字生兒
彌月即封侯

右
査嗣瑮雜詠詩
華亭武温其寫

朱竹坨賜宅

講直華光殿
居移覆道坊
經營倚將作
宛轉繞宮墻
對酒非無月
攤書亦有牀
承恩還自哂
報國祗文章

朱彝尊作

公廉書

五經紛綸抽腹笥布韈麻鞋見天子歸來著書以沒齒千秋之名在青史

錢唐龔翔麟拜題

界浦　里榮書

竹坨先生之像

景山 神武門の北にあり **大内の鎮山なり萬歳山といふ。** 周垣二里高さ百餘丈。五の峯ありて上に各亭ありて佛像を供ふ。山勢翼ある又蜿蜒をなせし。圍墻と樓を山の後に小門二あり。東を山左裏門と云。西を山右裏門といふ。 **壽皇殿** 左右裏門の中南にむかふ。壽皇門あり其内に廣九間。 **康熙皇帝乃神位を供ふ。** 乾隆帝御製の碑文あり〇殿の東に集祥閣あり。西北に興慶閣あり。殿の東を永思門とし内に永思殿あり又東を觀德殿といふ。明の旧制に依れり。 **護國忠義廟** 觀德殿の東にあり。関帝立馬の像を塑立して世に称す法駕圖に多く壽杲を插。 **北上門** 景山の正門。神武門と相對す。

景山（けいざん）

雪裏瑤華島雲端白
玉京削成千仭勢高
出九重城繡陌迴環
繞紅樓宛轉迎近天
多雨露草木毎先栄

成徳詩

○壽皇殿門の南、紫禁城に通て煤山あり。これを又萬歲山といふ。其高数十仞、衆木森然として鬱々たり。傳云、其下皆石炭を聚て、閉城不虞の用に備へるなりといふ。
○萬歲山の左に寛廣地あり。射箭の所にして觀德殿といふ。觀德殿の東南に近きところなり。内に牡丹芍藥多し。旁に太石壁あり。其石甚古奇なり。
○臻福堂 明代萬歲山乃東少しあり の西に一樹あり。其樹幹に纖雲板一を掛けり。僅に其二三分を露せり。蓋古物なり。

○稽察内務府衙門 景山西門の路北にあり。都察院滿御史二人、其事を稽察せしむ。 ○白石橋 北中門の、西胡同にあり。明の嘉靖四十年、萬法寶を此地の建中と寿想しこれを福舎といふ。右後福舎といふ。 ○護城河 紫禁城を繞る川なり。北闕口より分流して、内官監白石橋玉蘭各廟の東、玉芝宮、飛龍橋の西を經、其西から流をいふ。社稷壇乃西より西苑蓮宝朝日乃東にいたり、瀛海の河と合流して内城に出づ。 ○大高玄殿 西北にあり、北武門の、乾隆帝御書の扁額あり。 明の嘉靖中に建、清の雍正乾隆間両次重修す。○門前に亭二あり。弘慶闕構へ巧を極め盡せり。明の時中官名九梁十八柱と呼ぶなりせり。
○昭陽齋の東、一宮に東一帝の像あり、金を紀して壇を營てり。高一丈許。則明の世宗皇帝玄修の安設せし所。
○大高玄殿に三清の像あり。今なほ多く宮家奉る。嚴に内官宮婢の道教をならふ者は皆此に來りて拜禮を演習す。

○愼刑司署 西華門外小長街路西にあり。内府の刑罰を掌る。○凡内府に屬する者罪を犯せば、其刑杖一百以下の者は刑部の律例に依て審結し、杖一百以上の者は刑部に送りて其罪の輕重を紀し、明らかに或は犯し或は流徙の刑に處せしむ。職官たる者罪を犯せば、名を請て收禁し、妄の罪あるは別室にて是を禁む。諸日にて薪米を給ひ、其は冰塊を給ひ、疾ある者らは醫藥を給ひ、死する者の事は、皆これを掌るなり。

○慶豐司署 同所にあり。牛羊の廠を掌る。○凡内三圈と西華門の外に設く。外三圈と南苑とに設け、乳牛・牸牛・牡牛・犍牛・乳牛の名を立て、又其下に六の圈を設け、殺羊は八百、牝羊四十、羝…

朱搭泰の羊二十と書く。又張家口外に牛羊群を設く。牛三万、羊二十万を畜ふ。其外察哈爾崖に羊群百有十を設け、群毎に羊又百をもつて率とし、養什木すは牛群五を設け、群毎に廂牛又牡牛又乳牛九十を畜ひ名牧とす。其牛羊悉く烙印を押てしるしとす。○壇廟の祭すは慶豊司より犢牛を供し、大祀に祭神牛を供し、奉先殿及び皇城歴代帝王廟等の祀すは餼羊を供し、皇子公主の婚娶すは饗羊を奉る等、皆慶豊司これをつかさどる。

○會計司署 西華門外北長街路東にあり。内府の荘地畝・荘糧徴收の事を掌る。○凡京畿盛京豊關外にある所の宗室宗族の領せる荘田荘園の貢税を納る職署なり。兼て宮女の選を掌る。

○營造司署 日下にあり。土作の事、薪炭を掌る。○凡車駕出入の時に遇ば街道を清掃し、或は宮殿牆垣を修造し、公廨館廨器物等を造作し、又春の季すは禁中の溝渠を疏濬す。其月すは涼棚を搭し、秋冬は禁城牆垣の茭草を芟除き、冬の季は積雪を掃除す。

○武英殿修書處 日下にあり。武英殿に属す。聚珍板を此所にて摺り出す。

○營繕番役署 日下にあり。凡衆と犯人官人賢び巡査する太監等を捕縛し、番役は唐に不良人と稱し不良師あり。之を掌る。即漢の大誰何なり。○今の緝捕

○萬壽興隆寺 西華門北長街路西にあり。明の兵仗局也。康熙三十九年勅して建。康熙帝宸翰の額あり。佛堂の前に明の崇禎漢雲重修の碑あり。

○靜默寺 日下にあり。明代關帝廟の舊跡。康熙五十二年重建。康熙帝の御書額あり。

○福祐寺 西華門外北長街路東にあり。雍正元年に建。康熙帝大成功徳佛として奉安し、佛殿の内東に案を設け、乾隆帝御製の文集を陳ね、西すは寶坐を設。雍正帝御書の額あり。

○昭顯廟 日下にあり。雍正十年勅して建。雷神をまつる。雍正帝御書額あり。風神雲神の廟は東華門外にあり。雷神廟と倶に春秋の仲月、官つかはし祭りを致さしむ。

○官三倉 西華門外北圍房にあり。凡内廷歳時祀と祭り、及び奉先殿の祭祀り奉進せる粢盛稲粱の屬及び其外果蔬蜜蠟等をおさめ、分ち給ふ會計是を掌る。

○儀仗倉 西華門外北 城中建房にあり。

○堂内管領關防署 西華門外路南にあり。總管領の屬となる所なり。

○都虞司署 西華門外路西にあり。武職を陞補し、俸餉を移行ひ、既に俸禄を支給する事を掌る。○凡内府圓明園熱河盛京の各三旗及び上内宮衛の護軍驍騎等の外、選を補し俸禄の事を掌る。又鷹鷂の類を納るに其外京畿各州山海の獵物をもて都虞司是を掌る。

○掌儀司署 西華門外南長街織女橋にあり。内府の典禮を掌る。○凡大廟社稷奉先殿壽皇殿の祭祀、及び萬壽聖誕令節の慶賀、冊封御經筵耕耤親蠶陵寢巡狩等の諸禮典、或は燕饗食或は酒茶を賜ひ、皇子公主の婚嫁、其外雲神風神雷神の祀、鑾儀衛の事を掌る。

○莊署 織染局の南にあり。織染の蔵納糧銀の屬を掌る。

○管理三旗納銀 日下にあり。

西苑門の南にあり。明の時の灰池なり。此所に炕洞多くありて、洞中北風を恐る。

○眞武廟 織女橋の南にあり。明の寶鈔司の故址なり。室内に石灰の厚塗るゝ形に似たる處あり。此所に炕洞あり。今は是を暖室とし、花卉を養ふ。又其廟堂に七十二凶神を祀る。

南苑園 西苑門外の南にあり。明の時の灰池なり。此所に炕洞を暖室とす。明の時より冬の中に炕洞の内に火を焼き、其うへに蔬菜を植て、嚴寒の時も新らしき蔬菜を得るにより、暖室と称し、春の日は鮮き蒲萄を奉る。これを名けて暖室といふ。花樹を雜植、時ならぬ花を暖室にしてこれを奉る。殊に蘇州杭州の名産とす。蓋し樹木は北地の風寒さに痛む。花木皆枯凋んで、これに培養ぎかの暖室に納む。

元夕奉芍藥牡丹

再び生活ん又臘月より若葉牡丹を坑洞の内に栽置ハ玉の年を迎ふるその頃ハ盛に花開て
狠燭のまりよくあつく綵を舌ろひの花いさゝかよく開き出るぞ時ありて月花ゆ遊しそれのまゝ
の秋のいより蟋蟀を多く暖室の内に書ひ正月上元の夜に至りて天子西山に御幸ありて花燈を観
給ふ時鼇山の花燈の中よりかのきりぐくすを納楽を奏するの曉に止めが蟋蟀の声をかましく
界を希へ偏に佛の所謂極楽世界道家にいふ仙境もこれをはるにしとぞ拇とる。

出窖花枝比無寒窖房烘
火暖催看年年天上春先
到臘月中旬進牡丹
査嗣瑮厓洞詩
可亭书

○玉鉢菴 西華門外西南にあり。明の御用監の旧址。後没て真武廟とし清朝まて玉鉢菴と改む。
元の世祖至元二年十二月瀆山大玉海成る。勅して廣寒殿に置く。殿毀て後これを玉甕といふ。後西華門外真武廟の中にあり。俗玉鉢と称す。故に今菴の名とせり。乾隆十年勅してこの玉甕を承光殿の中におきこれを納む。承光殿の手後に見ゆ。

○奉宸苑署 西華門外西苑門の南にあり。苑囿河道稲田の属ひとへに總理す。○玉泉山其外苑囿の公用玉粒を蔵し、凡苑囿にある所の亭臺池沼林木禽獣鳩等みな修理し及び京城内外の河道橋梁を総理す。

西苑 西華門の西にあり。四方の門に西苑の榜あり。苑中に太液池あり。池中に瓊華島あり。殿座の宮室風流の亭を並べ苑中の景悉く数ふるべからず。僅に二三を挙て次に記す。

太液池 即西苑の内にあり。池の廣り四里、東西の闊さ二百餘歩いふへし。これを西海子と名く。石梁一を跨る。廣さ二丈余長数歩、両崖すべて白石を積て欄干を揃へし其中に木を篶し鐵鎖をてこれを制す。巨舩を通すべし。其中を通りし也。東西の華表に東なるは玉蝀といふ、西なるは金鰲といふ。又一の小梁を架して承光殿より瓊華島に達る。南北に華表あり。南なるは積翠といふ、北なるは堆雲といふ。其南を瀛臺といふ。北を五龍亭といふ。蕉園紫光閣は東西に相対す。岸を夾て楡柳古槐多く茂り。皆数百年の古木なり。禁中の人瀛臺を称して南海といひ、蕉園を中海といふ。五龍亭を北海といふ。夏の暑り日に汀の蓮華紅白の花咲かひ暑を退くる更に妃嬪御荷香と號す。此に涼を納る。冬の厳き日には八旗の武士集りて氷嬉といふ旗を列し氷の上に馬を走らせ打毬を試む。是を名て氷嬉といふ。

○おほよそ太液池の總景なり。其宮殿遊樂の光景は分て下に記し、且圖畫を併せ載て好事者の観に備ふ。

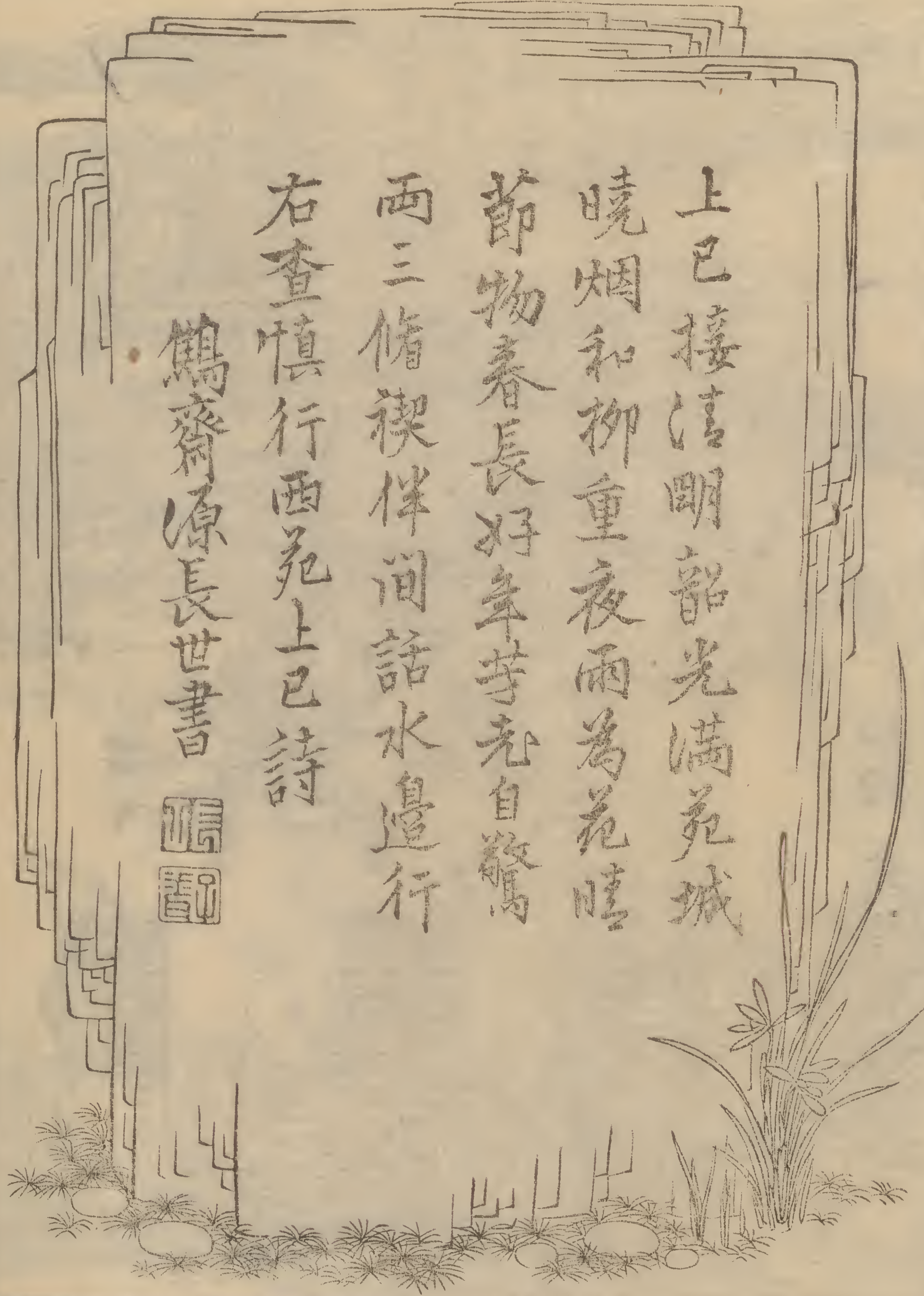
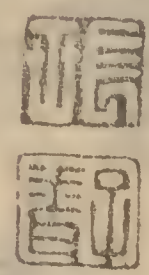
勤政殿 太液池の東岸に有り。南は池に臨みて北に向ふ。

涵元殿 勤政殿の後に徳昌門あり、門内正中南むきの殿なり。殿の東を藻韻樓といひ西を綺思樓といふ。

香扆殿 涵元殿の北に對す。

冰嬉

上巳接清明韶光滿苑城
曉烟和柳重夜雨為花晴
節物春長好年芳老自驚
両三脩禊伴閒語水邊行
右查慎行西苑上巳詩
鵻齋源長世書

新蒲古柏曉陰ゝ太液昆明接上林翡翠
層樓浮樹杪芙蓉小殿出波心人歌魚藻
衣冠會水奏蕭韶鼓吹音欲望天顏真
咫尺露臺迴合彩雲深
施閏章西苑曉行之詩
河三亥書

徐乾學西苑詩丹禁晴開晝漏遲上林春水綠透
迤金隄柳弱龍媒下玉殿花深雉尾移淑氣暗通
三島月和風先拂萬年枝　宸遊扈蹕宜春苑多
是天街燈火時
荒鳴門書

唐土名勝圖會 京師 皇城 卷之二

太液池

其一
瓊華島
永安寺
順治間白塔を
此に建よつて
白塔寺と称へ
積翠堆雲橋

其二
太液池
金鰲玉蝀橋

其三
五龍亭
小馬圈
紫光閣前門

瀛臺 香扆殿の後にあり。南に向ふ。東に春明樓あり。西に湛虚樓あり。水に臨むのところを迎薫亭といふ。○明代、瀛臺を南臺といふ。又趯臺陂と称し、林木深く茂す。中に昭和殿あり。其前を澄淵亭といふ。南に村舎水田あり。稼を観る所といふ。清の順治の間、此に宮室を建、蓬萊を擬するの所といふ。康熙の間、修理を加へ、皆茅屋を以て之を葺き、諸飾を黝堊せず。

徐乾學記云、勤政殿之左、歴小徑入門、為知稼軒、敷武至秋雲亭、其西則嘉穎軒、南則翔鷗亭、平臨太液、迤西朱墻内、為豐樂園。

南臺　　文徴明

青林迤邐轉回塘南去高臺對苑墻暖
日旌旗春欲動薫風殿閣晝生涼別開
林樹親魚鳥下見平田熟稲粱聖主
一遊還一豫居然清禁有江卿

原正作書

涵元殿の東に藻韻樓あり。又東南に折て補桐書屋、隨安室、其東の待月軒、鏡泉亭。又涵元殿の西、綺思樓、又の西を長春書屋、漱芳潤、藻光亭、韻古堂といふ。

韻古堂 乾隆十六年、江西より得る古鎛鐘十一、基に補鑄一を綴りて韻古堂と名づく。

古鎛鐘

補鐘

流杯亭 韻古堂の左、迎門の東にあり。此亭流水の中に続く。風檐水檻、五六遊ぎ擾を飛ぶ。康熙の間常に外藩貴官を此に宴しぬ。**康熙帝御題曲澗浮花**といふ額あり。北に素尚齋、懷香榭、雲廊、又又雪あり。又雪るは江南霊岩山にあり。其形似るを以て命してこれを名く。○西苑の外、静寄山荘、避暑山荘のでうも皆乾隆帝御題の詩並に碑あり。○池の岸を南に循ゑば日知閣あり。石級を以て地とし、其下に閘あり。池の水此より流出て織女橋に達す。又春及軒、文蕙館、翠鐘樓あり。其南を寶竹室、蕉雨軒、淡香閣、雲繪樓、韻聚齋といふ。其清音閣の堤に添ふて南の方に月榭軒、鑑古堂あり。○瀛臺の南池を隔てて相對する所寶月樓といふ。

豐澤園 仁曜門の西にあり。雍正帝藉耕の所に係る。○純秀亭、同く仁曜門の西にあり。門内は惇敘殿、澄懷堂、北に遐矚樓、崇雅殿、静憩軒、純一齋、懷遠樓あり。

紫光閣 池の西岸に循ひ北にあり。閣の前に地ありて武進士の騎射を試む。新歳には外藩貴官を此に宴す。此所明の時なる

紫光閣試
武進士

臺あり。上に圓頂の小殿を作り、臺の下より斜に廊を接し、縷級して升り下る。繞れば射圃あり。
馳道あり。明の武宗は帝の毛を装て、射を閲るの所とし、平臺とよべり。後臺を廢して其所に紫光
閣を建。門外は金鰲坊なり。明の時五月五日此に幸して
龍舟を閲りし、御馬監の勇士等走て躤柳を觀たまふ。

明文徴明平臺詩。
日上宮墻飛紫埃先皇閲武有層臺下方馳道依城盡東面飛軒映水開雲傍綺疏常不散
鳥窺仙仗去還來金華待詔多頭白欲賦長楊愧不才。

康熙の間中秋の前二三日、上三旗の大臣侍衞を集めて射を操り、康熙帝御製の詩に隊自花間入鏕徑柳外分といへる是なり。射畢て、倣芘張牌を賜ふ事あり。○乾隆庚辰回部を平定し、功臣五十人を紫光閣に繪しむ。又戰の圖を壁にゑがく。丙甲の年両金川賊を起し、師を發し伐て是を平定し、前後の戰ひに功ある臣百人を繪しめ、又紫光閣の前楹に掛て、戰蹟を繪しむ。其前の功臣五十人は乾隆帝御製の贊あり。後の功臣五十人は詞臣に命じてこれを撰せしむ。師の還る時功臣宴を此に設く。○武成殿は閣の後にあり。時應宮は閣の北にあり。丙甲の年金川を伐てこれに勝。金川より獲る所の寶毒纛軍器乃屬を武成殿に納め、門を武功と云へり。

[illegible]
紫光宴侍宴恭記　梅山田潤

尊藏紫光閣得勝靈纛之圖

御製尊藏得勝
靈纛於紫光閣詩以紀事
亭鄣靖金牙威宣戴旆燧烽消洱海德表結旌
爰開高閣以圖形並弆
靈旌為守器原夫一麾臨閫外彌文不侈
禡機七宿炳
壇中壯志初傳鐃鼓方過祁連而壓陣千山風鶴騰
聲更驅疏屬以揮軍百部沙虫埽跡昔也綰李
程刀斗遙是森羅今焉耀褒鄂弓　逾其英特
彼龍堆遼夾詎惟銅柱齊標而虎紐累然合與
金符同譜從此電霸生色非徒充武庫之儲遂
將日月承　庥永肆奉常之掌
麟閣圖形例紫光大師
靈纛並尊藏招摇伊古賚
神佑功績從今紀太常信是元戎萬志悃肯忘群
力効疆場持盈知足懷
乾惕敢復佳兵恃域疆
乾隆庚辰孟春

萬歳山

太液池

蕉園盂蘭會

万善殿

蕉園

蕉園 西苑門より東岸を循て北へ行ば蕉園といふ。松檜蒼翠として又果樹阿りてこれに羅列す。明の崇智殿の舊址なり。

萬善殿 蕉園の東、崇智殿の旧址乃南、萬善門の内にあり。殿の後ろは宏仁殿といふ。園蓋は聖駁と称し、東に延祥鏡あり、西に集瑞鏡あり。殿の東に内監学堂といふ。順治の間、萬善殿に仏像を供し、内監の老たる者を剃髪せしめ、こゝに焚修せしむ。又太液玉蝀の二橋の間に應じて来り此所に居住し、毎年七月十五日此に盂蘭盆會を修し、京師の民其日の暮より荷葉に燈をともし太液池に浮めて、是をたのしむ。銀燭数万とらめきて、南は瀛臺より北は萬歳山を繞て囲をなす。とりしびのさまなきもの、室の苑中の勝景なり。萬善門の西ゆきくして水埠の東に亭あり。水中に出づ。これを水雲榭といふ。乾隆帝御書の秋風乃にてあり。燕景八景の一となる。水雲榭の北に金鰲玉蝀橋あり。

摇挹芭蕉色満御園芊
踏便鹿要去而羅蜂緑結芙
蓉渾未交蘚莿翻詞林荃
歎頌此子重承恩

廖道南蕉園詩

喧

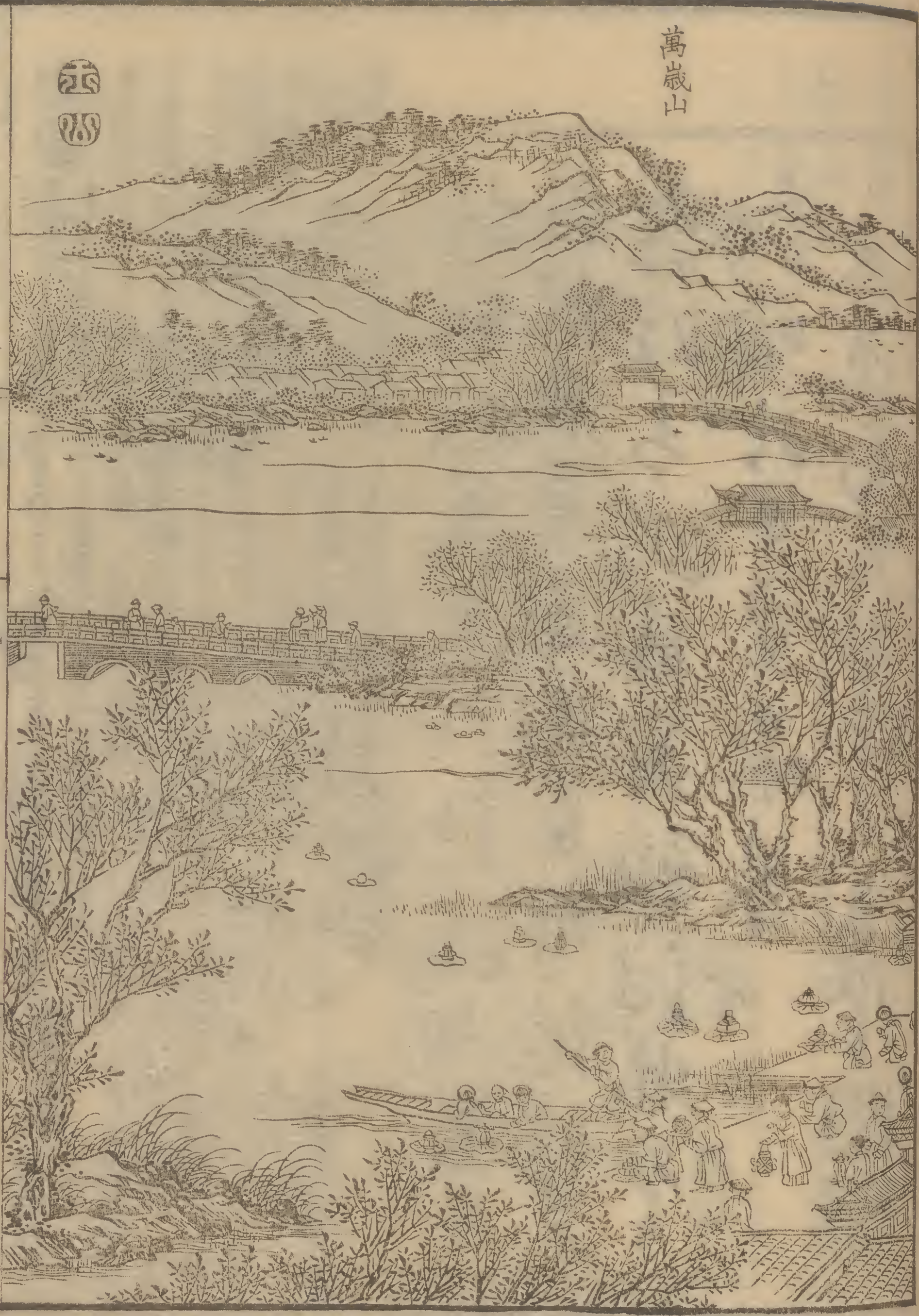
葛陂書

人字柳 太液池の畔に一株の柳樹あり。乾隆の間暴風ありて大きなる枝を吹折て地に枕せし。枝に根を生じ、翁本株傾き欹側んとす。帝命じて其折たる枝を扶して接け継しむ。然るに枝に根を生じ、緑の糸本株と競ふ。且其木ぶりの人の字に似たるゆゑ、人字柳と名けらる。乾隆御製の扁ならびに詩あり。

人字柳

金鰲玉蝀橋 太液池に貫き東西両岸に金鰲坊・玉蝀坊あり。禁苑往来の大なる橋なり。九門あり。御製の聯扁と勅ふ。又御製の詩あり。

承光殿　金鰲玉蝀橋の東にあり。圓城をなして圓く、睥睨を設け、両掖の洞門より入れば宮院を
ゐ金殿あり。即承光殿これなり。其形蓋のごとし。俗に圓殿と呼ぶ。庭上に古木、縦横に枝あり。又
槎枒として龍に似たり。是金の時の遺樹なりと云ふ。乾隆帝御製の詩あり。○殿の基ハ高く睥睨を
につらなり、殿よりして遥かに下を望めば、液池の西に舟をならべて浮橋を架り、棲に池の面に亘る。北は萬歳山瓊華島なり
まことに絶景なり。○殿内嫩橡多く植り。其大さ一尺許。○南に向ふて二の亭あり。左右の棟のごとに並ぶ。又承光殿
の南に石亭あり。乾隆十年にこれを建、元の代玉甕を此に置む。御製玉甕の歌あり、甕の内に刻す。内
延諸臣の和詩あり。亭の檐に承光を標す。○承光殿の後を敬躋堂、古籟堂、朶雲亭、餘清齋といふ。北は積翠堆雲二橋なり

玉甕之圖

輟耕錄云黒玉酒甕玉有白章隨其形刻為魚獸出没波濤之狀其大可貯酒三十餘石徑四尺五寸高二尺圍圓一丈五尺至元二年告成勑置廣寒殿

永安寺　積翠堆雲橋とこれ即金元の時の瓊華島なり。永安寺ハ則此にあり。瓊華島ハ太液
池の中に聳り、秀で松栢多く、嶙峋崖嵌、陰森の良嶽の遺なり。元の時汴京より東に
積今の燕京に移し築きたりし山なり。山の半腹に三の殿を建、門なり。
仁智殿といふ。左を介福殿、右を延和殿といふ。頂上にあるを廣寒殿と云。今の廢なり。

瓊華島之南面　永安寺の門に入て法輪殿あり。又引勝亭、涌雪亭あり。周りは石を疊て
洞となし、玲瓏宛転として良岳と擬したるもの是なり。洞を上れば雲依亭

意遠亭あり。其平かなるをみれば、承光殿、普安殿、聖果殿、後殿あり、皆佛像を供ふ。其引勝亭の内には乾隆
帝御製白塔總記及び呪面記を勒す。○寺墻の東より山に升れば振芳亭あり。再び升れば慧日亭、其西に
順治間建る所の白塔の碑記及び雍正間重修白塔の碑記あり。○寺墻の西より山に升れば亭あり、蓬壺攬勝
といふ。再び升れば悦心殿あり。其後を慶霄樓といふ。悦心殿の側に靜憩軒あり。殿の後より山頂に登れば元の
廣寒殿の旧址なり。即白塔を此に建。塔の前ハ善因殿。塔の後ハ刹竿五ありて其下に信礮を納る所とし、又
山の後に瓊島春陰の石を鐫。即乾隆帝の宸翰、燕京八景の一也。元永安寺より慶霄樓に至て瑤山の南面といふ。
○瓊華島の嶺に古殿あり。遼の太后の梳粧臺なりと云ふ。金元明の時皆此に宮殿を建て遊觀の
地となし、今其殘石壞礎あり。雲物皆廣寒殿の名を刺めり。元の納新が粧臺の詩に云、

廢苑鶯花盡。荒臺燕麥生。韶華如逝水。粉黛憶傾城。野菊金鈿小。秋潭玉鏡清。誰憐舊時月。
曾向日邊明

此詩の譯に云。粧臺ハ昭明觀の後にあり。金の章宗嘗て李妃と夜坐し、上の句に二人土上坐とて、妃の
云く一月日邊明と。上大によろこび給ふ。又元の順宗其妃英くらみに素芳殿を瓊華島の内に建て云
擬る。今の章宗李宸妃がための梳粧臺を瓊華島に建。遼の蕭太后の梳粧樓といふはあやまりなり。

瓊華島之西面　慶霄樓の西に石室あり、一房山といふ。山腰に亭あり、攝山亭といふ。其下に橋あり、橋の
北を承光殿といふ。亭名を妙鬘雲峯と名く。石徑をおりれば水精域なり。林蔭に
古井あり。其深さ測るべからず。乾隆帝御製の碑記あり。又水精域の下を甘露殿といふ。北に閲古樓あり。
樓上に三希法帖を嵌稱す。北をすれば前に懷室なり。窓ハ液池に臨み、山溪を鑿てかの古井の水を引
池中に注ぐ。元慶霄樓の西より前に懷室に至るまで瑤山の西面といふ。
○山の右の腰に巖穴あり。これに深さ測るべからず。從入て東ハ下海と通し、嗅龍ありて鯨を吐す。山
上に石あり。慶雲壽峯萬歳ともいふ。蓋良嶽の絶奇なる者なり。又獸を石あり。是康子國の名
石、松木水中に浸漬せらるること久しく化し
て石となれるものなり。其木の理宛然として明に分る。

瓊華島之北面 閲古樓より折して東をとれバ則戯山亭、酣古堂、補石洞あり、洞の東に写妙石室あり、其東に又洞あり、ゆく事数歩、盤嵐精舎にいたる、北に渉るときハ環碧樓あり、下を嵌巌室といふ、折て西に山亭あり、一壺天地と称す、又西に房あり、延南薫と名く、房より少して西を小崑邱といふ、又西を洞といふ、洞を透て仙人の跡を縫まつり、うりなべし、又西を得性樓、延佳精舎、抱沖室、抹山書屋といふ、此に至て亭樹に就て廊あり、道寧斎に接る、其東ハ即漪瀾堂、北ハ瀛池にのぞむ、有延樓ハ東に、晝盃倚晴樓ハ西に、晝き又分涼閣、物外照樓、遠帆閣、其間に詩瀾堂よりして東に蓮華室あり、大士を奉る、閲古樓より蓮華室にいたる迄瑤山の北面とす。

瓊華島之東面 石燈より山足に登る、看書樓あり、是れ即交翠亭あり、亭下の石洞に縁てあり、稲を古遷堂、弐山新亭といふ、堂下洞によりて出るものを見春亭といふ、更に翠亭より巌路を出れバ、智珠殿あり、即平地に続く、石燈より見春亭にいたると瑤山の東面とす。

○山頂なる白塔より東山の足にゆく、智珠殿の山径と春雨林塘といふ、折て北をとれバ、水天一色、晝舫斎、小玲瓏、古柯庭、得性軒、竹風搖月、紫榭室、雲蒲一区、緑意廊といふ、北ハ即先蚕壇に接る。

五龍亭 太液池の北にあり、中を龍澤といふ、左を澄祥といふ、右を湧瑞といふ、左を滋香といふ、右を浮翠といふ、總名して五龍亭と呼ぶ。○明の時、太液池の北に殿樓亭軒多く建置しが、今悉く廃して、惟余澤橋揚瀾ね

先蚕壇 西苑東北の隅にあり、其壇の制方なり、南にむかふ、經四丈、高四尺、四方陛あり、各十級、西北を庶瑛壇といふ、尾をもて覆ひ、其左々三の陛あり、先に宰牲亭あり、右に井亭あり。

先蚕神殿 壇の東南の方に西を向ふ、廣三間、東の廊々流瑞

神庫 殿の北にあり。

神厨 殿の南にあり、三間。

採桑臺 壇の東にあり、廣三丈二尺、高四尺、其臺の面全甎を甃き、囲むに白石を以てし、南東西の三方に陛あり、各十級、東西に桑の園なり。

具服殿 採桑臺の後にあり、廣五間、南に向ひ、三の陛あり、各又級、東西に配殿あり、各三間、四方に回廊を備ふ、二十間。

浴蚕河 宮墻の東にあり、外園北垣より流れ入て、南垣より出づ、垣の下に閘あり、啓閉をなす、本橋二つを跨る。

蚕署 橋の東にあり。

宮墻 東南西三方に各一門あり。

蚕室 蚕署の中に建る二十七間、各しく西に向ふ。

壇垣 周百六十丈、西南の隅に正門あり、門三、左右の小門各一、又西北の隅に角門あり、壇垣南の外に室二十五、各二八間、均しく西にむかふ、蠶歳

毎年春吉巳を皇后この壇に詣し、蚕の神を祭り給ふ。其次の日再躬桑を採り、女子に教るの道を行ひ給ふ。

凡饗先蠶之礼、為壇一成於西苑之東北、歳以季春吉巳、皇后躬親蠶事、迺饗先蠶之神以率女紅、先蠶神位南嚮、設黄幄帛一牛一羊一豕一登一鉶一簠簋各二、籩豆各十、尊一爵三琖三十鑪一鐙二、豫日樂部率掌儀司内監設樂於壇下左右、祭日鑾儀衛率内監陳皇后儀駕於順貞門外、辰時五刻太常卿豎内務府總管、詣乾清門告時、宮殿監督領侍轉奏皇后礼服乘鳳輿出宮、儀駕前導、陪祀妃嬪咸乘輿従、由順貞門神武門北上門入陟山門、至壇門外降輿、前引女官十人、賛引女官二人、恭導皇后由左門入至具服殿、妃嬪入配殿恭候、傳賛女官引公主、福晋命婦、位於壇下東西面、蠶宮令恭請先蠶神位安奉黄幄畢、相儀女官奏請行礼、皇后出具服殿盥洗、妃嬪随行、賛引女官恭導皇后由午階陞壇至黄幄次拜位前北嚮立、前引女官十人於階下兩旁序立、相儀女官二人随升壇左右稍後僉立、傳賛女官引陪祀妃嬪公主福晋命婦於壇下各就位序立、均北面、典儀女官賛執事官各共迺職、賛引奏就位、皇后就拜位立、迺瘞毛血迎神、司香女官奉香盤進、司樂女官賛挙迎神樂、奏麻平之章、賛引奏就上香位、恭導皇后詣香案前、司香女官跪進香、賛引奏跪、皇后跪、奏上香、皇后上柱香、次三上瓣香、奏復位、皇后復位、奏跪拜興、皇后行六肅三跪三拜礼、妃嬪以下均随行礼、奠帛行初献礼、司帛女官奉篚、司爵女官奉爵、詣神位前、奏承平之章、司帛跪奠帛一叩、司爵跪献爵奠於左、儀如初献、行終献礼、奏齊平之章、司爵跪献、爵奠於右、儀如亞献、樂止、女官一人賛答福胙、奉福胙、女官二人就東案奉福胙至神位前拱挙、降立於皇后拜位之右、受福胙女官二人進立於左、皇后跪、左右執事女官皆跪、右官進福酒、皇后受爵拱挙授左官、進胙受胙亦如之、行二拜礼興、率妃嬪以下行四肅二跪二拜礼、徹饌、奏柔平之章、徹饌畢、送

先蠶壇（せんさんだん）

皇后躬桑

採桑臺

五色旗

引礼女官

從採桑班位

龍亭

採桑位

皇后

歌採桑

引礼女官

蚕母

蚕母

不從採桑班位

唐土名勝圖會

神奏治平之章皇后率妃嬪以下行六肅三跪三拜礼執事女官奉帛次饌次香恭送瘞所皇后轉立拜位旁西嚮候帛饌過復位迺望瘞樂作恭導皇后降階詣望瘞位望瘞奏礼成恭導皇后至具服殿更衣蠶宮令恭奉神位還御皇帝乗輿還宮妃嬪從公主福晋命婦以次退翌日行躬桑礼

○躬桑之礼及遣妃代行礼之文以繁略之

○蚕壇より樵に沿ふて西北に行ば澄清齋抱素書屋韻琴齋鴨蕉鳴罨画軒抱嵐山亭等あり其譲濬齋より樵にそふて西南にまがれば西天梵境と名る所あり殿宇三重なり又大西天ともいへり

闡福寺 五龍亭の北にあり又極樂世界と名く乾隆十一年に建る万佛樓あり小銅佛一万有余體供る殿内には白傘蓋の佛を安ず佛の左右に数十丈の仏あらはれ佛と称る御製の碑あり

闡福寺の東に澂觀堂澂性堂咬雪堂致爽樓浴蘭軒蕩藻軒湛碧亭澹吟室浩絃池等とて西に門あり外獨に通ずるこれを陽澤門といふ

織染局 舊嵩祝寺の後にありしを近き頃万歳山の西に移す○織染及び其余の物料を浙江より差しむ先絹綢の色様を奏し蛮のごとく織造人繊度より蘆殺を掃げ絹染局を呈す

延壽菴 三坐門の北峯房変るの西にあり康熙間帝修せし明の嘉靖年に建立あり上に延壽菴及内府数寺の安樂堂佛堂永遠供奉の字を掲ぐ是安樂堂は西内経厳ありし延壽菴は

則安樂堂 **經板庫** 延壽菴の猶西にあり

の佛堂なり

内府の安樂堂は今は廢く明の時宮女の年老たるに羅病又は若し有ては職を去る所者は先安樂堂に發み事足しをく繡る者は再び浣衣局に遣さる又負は撒り推き後は明の憲化同萬貴妃寵を施くみる時に孝穆紀皇后幸あり萬貴妃が妬を曜を避て此に移し安樂堂に居く孝宗帝を生り

闡福寺大佛

日本の皇都東山大佛方広寺の前に蓮華王院ありて三萬餘の佛像を供す爰に図する闡福寺の白傘蓋佛も大佛の右ありて萬佛樓に萬餘の小銅佛を供するの略に我朝の大佛殿三十三間堂と彷彿たり

西安門
慈雲寺
西安門

祠竈を隔し設け、其中へ山中の水を灌ぎ曲流して池に注ぐ。池辺多く奇石怪山石を並べ立たり。名けて小蓬莱と称す。其南は瑶景亭・翠芳林亭なり。此あたり古木盤屈怪石層峯へ相対して東西の二池に通じ、叢の間を旋磨臺といふ。螺旋してよれば其嶺に至る。陶を磴とし其形螺の如し。傍へて云、明の世宗帝此所に北斗を祭りし所なり。此山元の時築く所なり。元人此奇石を載して燕京に致る。其一石輝米石と号てこれに準ぜ依て俗に折糧石と呼とぞ。明の時重陽の節には天子万歳山或は兎児山の清虚殿に幸し、并び内臣皆菊花の蒲服を着し帝を供奉し迎霜兎、菊花酒を嚥をとらしむ。

○火藥局　拜斗殿の西にあり。即明の兎児山旋波臺の地なり。

西安門　皇城の西門なり。景山と相對す。○二聖廟　十庫にあり。十庫は西安門内街の北の極なり。即明の総督房地の祠なり。康熙帝御書の額あり。○慈雲寺　門西にあり。明の十庫弟天王殿の址なり。門の額は康熙帝御書、又乾隆帝御製の詩碑あり。

西十庫は西安門内にあり、南に向ふ。古く堂庫を設く。十庫と名るは十干の名を命じ甲乙丙丁戊より以下は別の名に改む。故は已は已なれば成なるべし。戊以下の名、承運といふ、広恵といふ、広盈といふ、広積といふ、贓罰といふ。清の初年庫を封じて閉くるなし。雲積で広積ありしを康熙年間内務府に命して清察せしめ庫の據業を立られたり。

○元都勝境　陽澤門小馬園の西にあり。此地を乾隆帝重修して名を天慶寺と攝ふ。又御書額并に劉鑾塑像の詩あり。○劉鑾は元の人なり。嘗て阿爾尼格といふ者に從ひ西天の梵相を学び妙手の名ありし。正殿には玉皇大帝の像を安し、右の殿には三清部を塑し、儀容肅

穆道気深沈たりし元の殿には、元帝君を塑し、元帝を執前を傾け聞て紛々一隻の跪く者、其顔は皆燃燎麗なる者のごとし。神勅止給を致めて聞者に似たり。皆劉鑾が塑する所なり。○弘仁寺　太液池南の岸にあり。明の代の清馥殿なり。清の康熙五年改て寺とし、旃檀佛像を迎て内に安す。康熙帝并び乾隆帝御書の碑あり。又康熙帝御製旃檀佛西来歴代傳記あり。石に勒し寺の後に楼あり。雲蔭楼といふ。○清馥殿は今数寛玉蝀橋をすぎ北に渉る所なり。明の世宗帝の建させ給ふ所なり。帝此に興献太后を奉じて此殿に擬び給ふ。池の傍らは翠芳亭并に錦芳亭あり。夏月荷花ひらきて開く比多くの宮女紅のさまやう着し羅の蓋をとりて岸によりて繊細なるさまを池に映じ写る。あたかも蓬壺の仙會に似たり。○虎城　弘仁寺の後にあり。其西北の隅に豹房、百獣房ありしが今は廢す。○若虎城と櫺星門の西北にありて南に下る。上に譙楼の如く、まへに虎を撮まし。○教軍場　弘仁寺の西、闡福寺の垣の後にあり。即明の内教場なり。嘉靖三十一年改めて内武営とし、火器水戰牧馬操練の所とし、其周に鐵網あつく籠のごとく志門らひ虎を撮まし、を犯る中に一の基址を建てこれを親閲の所とし。

地安門　皇城の北大門なり。景山の北にあり。俗に厚載門といふ。北は鼓楼に對す。

右皇城の壇廟署營寺祠及び名勝故跡ことごとく之を載て漏るゝなし。唯番勝寺、伽藍寺、火神廟、慈慧寺、真武廟二、玉皇廟、饅頭房、雙印寺、仁寿寺、大佛堂等の十一箇所は傳記の詳にすべきなきを以て皆本文に略せし。

明の時皇城の四方、大清門、左右長安門、東安門、西安門、地安門等、夜の初更に操出入を禁じ、夜巡の軍人銅鈴を揺振て徐に行き遶らし清朝にいたり皇城の内居民甚稠く、東安西安地安の三門閉て操に民あるひは醫者を請じ穏婆を迎る等のまゝ時候に拘らず出入をゆるす。

唐土名勝圖會卷之二終